琉球国中山王城　浦添グスク

13世紀に築かれた浦添グスクは、14世紀には高麗系瓦ぶきの正殿を中心に、石積み城壁で囲まれた大規模なグスクとなりました。その周辺には、王陵・寺院・大きな池・屋敷・集落などがあり、後の王都・首里の原型ができあがっていたようです。

王宮が首里に移った後、尚真王の長男・尚維衡が浦添グスクに居住しました（浦添家）。その後、1609年の薩摩藩の琉球侵攻により、浦添グスクは焼き討ちにあいました。1945年の沖縄戦や戦後の採石で城壁が失われましたが、現在は復元整備を実施中です。

❶ 浦添ようどれ

琉球国中山王の墓。英祖王陵といわれている西室と、尚寧王陵の東室の二つの墓室があります。

❷ 正殿？の石敷き

正殿付近で採集された鬼瓦

❸ 新たに発見した城壁

平成26年度の発掘調査で土に埋もれていた城壁を新たに発見しました。

❹ 石畳道

❺ 浦添城の前の碑

浦添家出身の尚寧王が、1597年に整備した石畳道です。竣工記念に「浦添城の前の碑」が建てられました。

❻ 城壁の下に埋められた若い女性

城壁の内側にあたる場所で発見された人骨です。人が入るギリギリの大きさに掘られた穴に埋められ、粘土でおおわれていました。骨格のしっかりした身長約150cmの20歳前後の女性です。